

授業科目 基礎看護学実習Ⅰ

【担当教員名】 長谷川隆雄 他		対象学年	1	対象学科	看護学科
		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	45
【一般目標：G10】 1. 受け持ち患者とのコミュニケーション技術を習得する。 2. 受け持ち患者の状態に応じた日常生活の援助技術を習得する。 3. 受け持ち患者とのコミュニケーションの展開や日常生活の援助を通して、看護の役割を理解する。					
【行動目標：SB0】 1. 実習施設における患者の生活環境を説明できる。 2. 受け持ち患者の看護に必要な情報を看護記録などから収集する。 3. 受け持ち患者とコミュニケーションを展開する。 4. 受け持ち患者の状態に応じて、安全な生活環境に整える。 5. 受け持ち患者のバイタルサインの測定を実施する。 6. 受け持ち患者の状態に応じて、清潔の援助を実施する。 7. 受け持ち患者の状態に応じて、食事の援助を実施する。 8. 受け持ち患者の状態に応じて、排泄の援助を実施する。 9. 受け持ち患者の状態に応じて、安楽な体位や移動の援助を実施する。 10. 受け持ち患者に実施した援助の内容とその効果を記述する。 11. 受け持ち患者の援助を通して学んだ看護の役割を記述する。 12. 実習での学びをカンファレンスや全体発表などを通して、他の学生と共有する。 13. 実習での学びを通して、今後の学習課題を述べることができる。					
期間	授業計画又は学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	1. 病棟実習オリエンテーション			1	実習
2-4	2. 受け持ち患者の看護に必要な情報を収集して記述			2	実習
	3. 受け持ち患者とコミュニケーションを展開			3	実習
	4. 受け持ち患者の状態に応じて安全な生活環境を整備			4	実習
	5. 受け持ち患者のバイタルサインの測定を実施			5	実習
	6. 受け持ち患者の状態に応じて清潔の援助を実施			6	実習
	7. 受け持ち患者の状態に応じて食事の援助を実施			7	実習
	8. 受け持ち患者の状態に応じて排泄の援助を実施			8	実習
	9. 受け持ち患者の状態に応じて安楽な体位や移動の援助を実施			9	実習
	10. 受け持ち患者に実施した援助の内容とその効果を記述			10	実習
1-5	11. 受け持ち患者の援助を通して学んだ看護の役割を記述			11-13	実習
1-5	12. 実習での学びを他の学生と共有			12	実習・グループ討議・発表
【使用図書】		<書名> <著者名> <発行所> <発行年・価格・その他>			
教科書		川村佐和子他編：基礎看護学-基礎看護技術，メディカ出版，2004.			
参考書		1. 氏家幸子他：基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 第6版，医学書院，2005. 2. 坪井良子他：考える基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ，廣川書店，2001. 3. 三上れつ他：演習・実習に役立つ基礎看護技術 ニューヴィルヒロカワ 2003			
その他の資料		基礎看護学実習Ⅰ要項			
【評価方法】 1. 実習指導者の評価 2. 実習記録の内容 3. 実習課題の内容 4. 実習後報告会への参加状況			【履修上の留意点】 1. 人間を対象とした実習であることを念頭に、対象の安全の確保やプライバシーの保護など、倫理的な配慮には十分に留意する。 2. 初めての実習であることを踏まえて、事前の学習を十分に行うことが重要である。		